水稲の生育状況と今後の管理対策（臨時号）

令和８年９月 11 日
新潟県農林水産部

◎ ８月下旬以降の断続的な降雨の影響等により、コシヒカリを中心に倒伏が多くなっています。倒伏したほ場では、品質への影響を最小限に抑えるため、収穫後は、籾の状態に応じた丁寧な乾燥・調製作業を行いましょう。

〔今後の管理対策のポイント〕

＜倒伏したほ場における管理作業のポイント＞

事前対応

○　ほ場ごとの倒伏程度や籾黄化率等の状況を確認し、収穫する順番を決めましょう。

○　水が溜まっているほ場では、排水溝を入れる等により表面排水を促しましょう。

収穫

○　倒伏程度が大きいほ場は、被害粒や未熟粒の多発生による品質への影響を抑えるため、刈取から調製まで別に取扱い、他のほ場の米と混ぜないようにしましょう。

○　倒伏程度に応じて、「追い刈り」（株元から穂先が倒れた方向に向かって刈ること）で丁寧に収穫作業を行いましょう。

乾燥

○　籾水分が高く、生籾が変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く乾燥機に張込み、通風しましょう。

○　籾水分のばらつきが大きいので、胴割れを抑制するため、水分 18～20%で加熱乾燥を一旦停止し、半日程度貯留して水分ムラをなくしてから加熱乾燥を再開しましょう。

○　青米や屑米の混入が多くなると、乾燥終了後に玄米水分が若干高まることがあります。乾燥終了後、籾の温度が下がってから、必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。

○　加熱乾燥を停止した直後は籾の温度が高いので、必ず通風循環して籾の温度を下げてから貯留しましょう。

調製

○　ロール幅を調整し、肌ずれを防止しましょう。

○　選別に用いるふるい目は 1.85 ㎜以上を基本とし、品種による粒大や未熟粒の多少に応じて適切なふるい目を使用しましょう。

○　未熟粒や着色粒等の被害粒が多く、粒厚選別機による選別では不十分な場合には、色彩選別機を活用して整粒歩合を高めましょう。

＜収穫後の土壌管理＞

○　稲わらを春にすき込むと、急激に分解し、ワキが多く発生します。ワキの発生防止と土づくりのため、稲わらの秋すき込みを行いましょう。

○　籾殻はケイ酸成分を含む有用資源ですので、積極的に施用しましょう。

○　稲わらや籾殻は１か所に偏ると、初期生育が悪くなることや、遅れて葉色が濃くなる可能性があるので、できるだけ散らしましょう。また、地温が高いほど分解しやすいので、収穫後できるだけ早い時期に浅めにすき込みましょう。

○　排水の悪いほ場では、排水溝を入れ表面排水を促しましょう。

農作業安全

○　農業機械を運転するときは、シートベルト・ヘルメットを必ず着用しましょう。また、公道走行する場合は、法令を遵守しましょう。

○　収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。

○　できるだけ２人以上で作業し、やむを得ず１人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。

盗難防止

○　作業場のシャッターや保管場所は施錠し、防犯カメラをつけるなど、盗難防止対策を強化してください。

必ずエンジン停止！

軽微なつまりを取り除く場合でも、必ずエンジンを停止してから作業しましょう。